大学2年生に対するキャリア教育科目の効果測定Ⅰ

授業前後および追跡調査時点におけるCAVT（意欲版）得点の比較

○永作 稔¹・櫻坂 英子¹・北野裕理²・岩熊史朗¹

(¹駿河台大学心理学部・²駿河台大学大学院心理学研究科)

キーワード: キャリア教育, キャリア・アクション・ビジョン・テスト (CAVT), 大学生

Evaluation of a career education program for sophomore students I

Minoru NAGASAKU¹, Eiko OSAKA¹, Yuri KITANO² and Shiro IWAKUMA¹

(¹Surugadai Univ., ²Graduate school of Surugadai Univ.)

Key words: career education, career action vision test (CAVT) , under graduates

【 問 題 と 目 的 】

2011年4月に大学設置基準が改正され、教育課程内外において社会的・職業的自立に関する指導等（キャリアガイダンス）を義務化することが定められた。このような指導の教育課程内における取組みの一例として、「幅広い職業意識の形成等を目的とする授業科目」が挙げられており、筆者らが所属する学部でも、大学2年時にキャリアデザインという半期科目を必修化している。ところで、上西（2007）は「大学におけるキャリア支援・キャリア教育にとってまず重要なのは入学時からの動機づけであり、みずから学ぼうという動機づけ、人と積極的に関わっていきこうという動機づけが重要となる」と述べている。そこで、この授業では学生たちの行動への意欲喚起をひとつの大きな目標と位置づけ、授業設計を行った。具体的には、中だるみが生じやすい2年生という時期に、残りの学生生活を有意義に過ごすことができるよう積極的に行動すること大切さを知り、実際に行動できるようになることを目指した。本研究の目的は、このような授業設計で開講された授業の教育効果を、大学生へのキャリアガイダンスの効果測定用テストとして開発されたCAVTを用いて検討することである。なかでも本研究では、CAVT（意欲版）を用いて、大学生のキャリア形成に対する意欲の程度がどのように推移するのかについて検討した。

【 方 法 】

調査対象：首都圏私立大学の心理学部に在席する大学生 84名（男子学生 38名、女子学生 46名）。3時点の調査にいずれも回答し、かつ授業への出席率が80%以上であった学生を分析対象とした。履修登録者に対する有効回答者の割合は61.8%であった。

調査時期：2011年度の授業で調査を行った。授業前（初回授業の冒頭：9月）、授業後（最終授業の最後：2012年1月）、3ヶ月後追跡（4月）3時点で調査を実施した。追跡調査は翌年度4月の対象年次ガイダンスにて実施した。

調査内容：授業前はCAVT意欲版（下村ら，2009）のみを、授業後と追跡調査ではこれに加え、CAVT達成版（下村ら，2009）も実施した。調査は授業内またはガイダンス時間内に一斉配布し、その場で回収した。

【 結 果 と 考 察 】

一要因分散分析によるCAVT得点の比較

CAVTの各項目および下位尺度得点平均値の差について、分散分析を用いて検討した（Table1）。その結果、下位尺度の1つであるアクション得点を中心に、授業後に数値が上昇し、約3ヶ月後の追跡調査時点でも高くなった意欲が維持されることが示された。加えて、項目3については授業後に高まった意欲が3ヶ月後にさらに上昇していた。女子学生においては、授業後にビジョン得点も上昇し、その意欲の高まりは追跡時点でも維持されていた。この結果、女子学生の「様々な人に出会い人脈を広げたい（項目8）」を除いて、授業後に高

まった意欲は追跡調査時点においても維持、もしくは上昇していることが示された。したがって、大学生活を有意義にまた積極的に送ることができるように、キャリア形成に対する意欲を高めることを目指して設計および運営された授業の目的は、相当程度達成することができたと考えられる。

Table1 キャリアデザインの授業前後、および3ヶ月後追跡調査時点におけるCAVT(意欲)得点の比較					
項 目	対 象	授業前平均 ¹⁾	授業後平均	追跡平均	F値 ²⁾
1 将来のビジョンを明確にしたい	全(84)	4.38	4.49	4.56	1.23 n.s.
	男(38)	4.45	4.47	4.45	.02 n.s.
	女(46)	4.33 a	4.50	4.65 b	5.43 **
2 学外の様々な活動に熱心に取り組みたい	全(84)	3.51 a	3.89 b	4.42 c	21.50 **
	男(38)	3.50 a	3.84 b	4.34 c	7.18 **
	女(46)	3.52 a	3.93 b	4.48 c	16.56 **
3 将来の夢をはっきりさせ目標を立てたい	全(84)	4.33	4.41	4.42	.38 n.s.
	男(38)	4.29	4.21	4.34	.25 n.s.
	女(46)	4.37	4.57	4.48	1.54 n.s.
4 尊敬する人に出会う場に積極的に参加したい	全(84)	3.61 a	3.93 b	3.95 b	6.25 **
	男(38)	3.45	3.79	3.79	1.74 n.s.
	女(46)	3.74 a	4.04 b	4.09 b	6.76 **
5 将来、具体的に何をやりたいかを見つけたい	全(84)	4.58 a	4.38 b	4.55	2.59 †
	男(38)	4.50	4.16	4.39	2.16 n.s.
	女(46)	4.65	4.57	4.67	.96 n.s.
6 人生に役立つスキルを身に付けたい	全(84)	4.52	4.51	4.58	.34 n.s.
	男(38)	4.61	4.53	4.53	.49 n.s.
	女(46)	4.46	4.50	4.63	1.29 n.s.
7 将来に備えて準備したい	全(84)	4.23 a	4.38 b	4.51 b	9.67 **
	男(38)	4.32 a	4.34 a	4.58 b	4.11 *
	女(46)	4.15 a	4.41 b	4.46 b	6.19 **
8 様々な人に出会い人脈を広げたい	全(84)	3.95 a	4.39 b	4.21 b	10.29 **
	男(38)	3.88 a	4.24 b	4.21 b	7.64 **
	女(46)	4.17 a	4.52 b	4.22 a	6.51 **
9 将来のことを調べて考えたい	全(84)	4.06	4.20	4.29	2.04 n.s.
	男(38)	4.13	4.16	4.21	.08 n.s.
	女(46)	4.00 a	4.24	4.35 b	5.01 *
10 何事にも積極的に取り組みたい	全(84)	3.73 a	4.18 b	4.14 b	11.83 **
	男(38)	3.53 a	4.03 b	4.05 b	5.43 **
	女(46)	3.89 a	4.30 b	4.22 b	6.75 **
11 自分が本当にやりたいことを見つけたい	全(84)	4.50	4.52	4.33	1.29 n.s.
	男(38)	4.32	4.18	3.97	.82 n.s.
	女(46)	4.65	4.80	4.63	2.44 †
12 様々な視点から物事を見られる人間になりたい	全(84)	4.60	4.64	4.62	.22 n.s.
	男(38)	4.39	4.53	4.61	1.67 n.s.
	女(46)	4.76	4.74	4.63	1.41 n.s.
ビジョン(奇数項目)	全(84)	26.08	26.38	26.65	1.00 n.s.
	男(38)	26.00	25.53	25.95	.30 n.s.
	女(46)	26.15 a	27.09 b	27.24 b	5.70 **
アクション(偶数項目)	全(84)	23.92 a	25.55 b	25.46 b	17.58 **
	男(38)	23.16 a	24.95 b	25.08 b	6.81 **
	女(46)	24.54 a	26.04 b	25.78 b	13.64 **

1) 各項目は「そう思わない(1点)」～「そう思う(5点)」までの5件法で測定した

2) n.s.: >.10, †p<.10, *p<.05, **p<.01

3) LSD法による多重比較の結果、アルファベットの異なるところで有意差あり(p<.05)

しかしながら、本研究は統制群との比較検討を行っていない。そのため、この結果が授業の効果であるのか、単なる時間経過による発達的变化によるものであるのかについては、今後さらなる検証を要すると考えられる。

【 引 用 文 献 】

下村英雄・八幡成美・梅崎修・田澤実（2009）. 大学生のキャリアガイダンスの効果測定用テストの開発 キャリアデザイン研究, **5**, 127-139.
上西充子(2007)大学のキャリア支援―実践事例と省察― 経営書院 pp.24-76.